

記録的な大雪で新年を迎えた今年も、各集落では正月飾りを燃やして一年の無病息災を願う「とんどさん」が行われました。

鳥取県では「とんどさん」と呼ばれていますが、他の地域では「とんど焼き」「どんと焼き」「左義長（さぎちょう）」とも言われます。これは、平安時代に宮中で行われていた祭事で、刈り取り跡の残る田んぼなどに長い竹を3、4本組んで立て、そこにその年飾った門松や注連飾り、古い札、書初めで書いたものを持ち寄って燃やす伝統行事です。

日本では昔から、大きな火を焚くことは病を除くとか、祭神を炎と一緒に天に返すとかされていて、書初めが高く燃え上がれば字が上達し、とんどさんの火にあれば病気になるいと言われています。またこの火で焼いたみかんや餅、餅をいただくこの年を無病

とんどさん

はつかさん

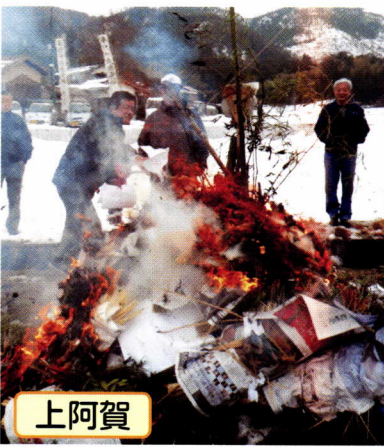
第11号  
発行  
天津地域振興協議会  
総務企画部編集委員会  
印刷  
米子ワークホーム



柏尾

息災で過ごせると言い伝えられています。

地域によっていろいろな行事が行われているこの小正月。年々この風景も様変わりしていますが、いつまでも続けていきたいものです。



上阿賀



谷川



清水川

「鳥追いの行事」と「七草粥」

「鳥追いの行事」とは、六日の昼までに「七草」を摘んで準備し、その夜、まな板をすりこぎと杓子で叩きながら「日本の鳥は唐土に渡る。唐土の鳥は日本へ渡る。渡らぬ先に七草そろえてヤッホッホーヤー」（地方によって歌に多少の違いがある）と三回唱えるという年中行事です。

翌、七日の朝、これをお粥に炊いたものを『七草粥』と呼び、家内中でいただきます。邪気を払い万病を除くという意味で食べられています。おせち料理で疲れた胃を休め、野菜が乏しい冬場に不足しがちな栄養を補う効能もあります。この行事は、無病息災と豊作を祈る行事が結びついたものと考えられています。

すずしろ ナズナ すずな  
ゴギョウ  
ハコベラ  
セリ ホトケノザ  
春の七草



いきいきサロン紹介

上阿賀

さつき会

現在、わたしたち「さつき会」は女性十六名(ボランテニア二名含む)で活動しています。

毎月一回、新しくなった公民館に集まり手芸をしたり、歌を歌ったり、ゲームをしたりして楽しく遊んでいます。

年に三、四点の手芸作品を作っており、それを天津の文化祭やボランテニアフェスティバルに出し



布を使ったり折紙を使って作ります



大正琴のみなさんと一緒に

多くの方に見てもらっています。さつき会のみなさんはとても器用で上手に作られます。

今月の会は、みなさんが楽しみにしておられた大正琴の演奏会でした。大正琴をされる上阿賀の方を呼んで、千昌夫の「北国の春」の演奏に合わせてみんな歌を歌い楽しみました。

これからも元気で、みんな仲良くいきいきサロンが続くようお世話していきたいと思えます。

(世話人代表 種 いみ子)

上阿賀

花すみれ

わたしたち「花すみれ」の Motto は『明るく・楽しく・和やかに』です。現在、会員とお手伝い合わせて十四人で活動しています。みなさん毎月一回の会を楽しみにしておられて、いろんな案を出し合いながら楽しい一日を過ごしています。



花回廊の喫茶店で記念撮影



春と秋の年二回は、みんながバスに乗って外へ出かけます。春は巡回バスに乗って花回廊に行きました。ポピーが丘一面に咲いていてとてもきれいでした。秋には、親睦を深める為「さつき会」と合同で米子に行き、食事をしました。

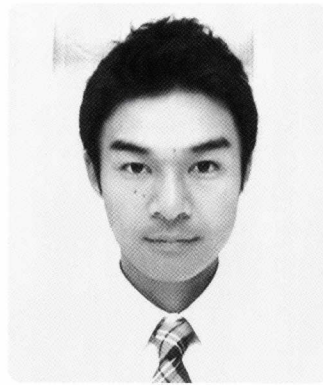
普段一人ではなかなか出にくいですが、みんな誘い合って出かけることが、いつまでも元気に過ごせる秘訣ではないでしょうか？ 今後みんな協力し合って楽しい会にしていきたいです。

(世話人代表 塔畑 美代子)



あの人  
この人

今回は現在、高校野球を指導されているお二人を紹介します。  
丸山 啓さん(境)と秦 修一さん(上阿賀)です。



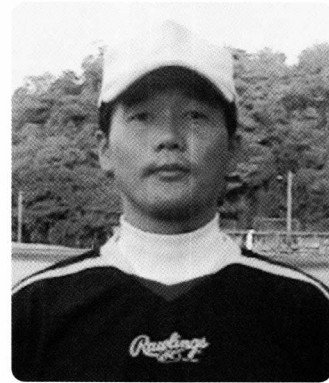
倉吉農業高 丸山さん

昨年四月に倉吉農業高校へ異動となり、現在野球部の監督をしており  
ます。

昨年の大会で三年生が引退し、今は一年生五名(二年生なし)という  
少人数で活動をしています。昨秋は  
他の活動から助っ人を呼んで大会参  
加を果しましたが、結果はあえなく  
初戦敗退。精神面、技術面のどちら  
をとっても相手チームとの差が歴然  
としていました。

秋の大会以降、引退した三年生の  
助けも借りながら、今置かれている  
環境で最善を尽くすことをテーマに  
練習に取り組んでいます。勝負事  
です。勝敗にもこだわりつつ、野  
球を通じて仲間を思いやる気持ち  
や、道具を大切にすることが彼ら  
に育てていきたいと思っております。

高校野球を支えて



米子東高 秦さん

米子西高から米子高の指導者を経て、  
現在米子東高野球部顧問(コーチ)  
をしております。

東高の野球部は現在二十六名の選  
手が在籍し、平成八年以来の甲子園  
出場に向け日々努力しています。今  
は基本技術練習と基礎体力作りを中  
心に行い、トレーナー指導のもと充  
実したオフシーズンを過ごしていま  
す。

また『みんなに応援される野球部』  
というスローガンを掲げ、一高校生  
として模範的な姿を追求しています。  
これにより思いやりの精神や主体的  
に行動する態度を養い、ピンチに動  
じない、臨機応変に動ける選手の育  
成につながると考えています。

『心豊かなれば技冴える』  
これは大切に行っている言葉の一つ  
です。潜在能力を發揮するために心  
の持ち方は大切であることを  
折に触れて伝えられたらと思ってい  
ます。

地域に笑いと笑顔を

谷川 酔虎隊・友栄会

酔虎隊は、平成十八年に開催さ  
れた鳥取県民スポーツレクリエー  
ション祭の前年に谷川でもチ  
ームを組んでバウンスポールに出  
ようとして結成されました。初めは「谷川  
チーム」という名前でしたが、登  
録するときにカッコいい名前にし  
ようと『酔虎隊』と改名しました。  
体協バウンスポールとして、毎  
週一回ふるさと交流センターで練  
習をしています。また、西伯小P  
T Aの球技大会の審判に協力する  
など地域の活動にも一役かっ  
ています。



バウンスポール県大会 5連覇中



笑顔の絶えない仲間です

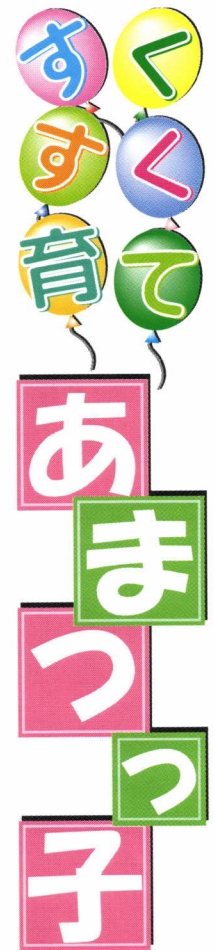
酔虎隊が結成されてから二年後、  
谷川の福田神社宵祭りの打ち上げ  
で飲み会をしていた若者が「毎月  
一回は公民館で集まって飲みたいや!」  
と立ち上げたのが『谷川・下阿賀  
青年連絡協議会』です。初めは酔  
虎隊のメンバーと数名でしたが、  
近隣の集落の仲間にも声をかけ、  
今では総勢十七名で大宴会が開か  
れています。その頃から会の名前  
を『友栄会』と改め、若者の輪を  
徐々に広めながら交流をしていま  
す。

平成二十三年には前谷 憲博さ  
んを顧問に加え、それぞれの集落  
の情報交換をしながらより一層親  
睦を深めていきたいと思えます。





境の子どもたち  
く水木しげる  
ロードへく



現在境の子ども会は、男の子七人・女の子七人の計十四人です。三月の歓送迎会に始まり、お楽しみ会や公民館の草取り、敬老会の参加やクリスマス会などいろいろな行事をしています。

夏のお楽しみ会は、「ゲゲゲの女房」効果で観光客の増えた『水木しげるロード』に行きました。社会科見学も兼ねて、バスと列車で行きました。バスでは整理券を取って乗り、お金を払って米子駅で降りました。駅では切符を買って改札を通り、きたろう列車に乗って境港まで行きました。

水木しげるロードでは、みんなでスタンプリーをして「すごく面白かった」と大好評でした。

今年度事業も三月の歓送迎会で終わりになります。今年には四名の六年生が卒業し、一年生は一人も入って来ません。グーンと人数が減って寂しくなりますが、元気いっぱいの子で今まで以上に仲良くやっていきたいと思っています。

(集落長 渡邊 睦美)



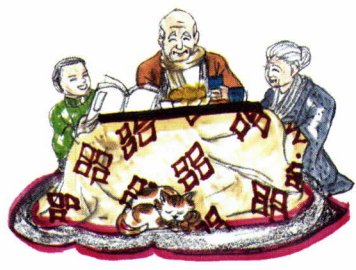
ねずみ男と一緒に記念撮影



敬老会でまいちょ音頭を披露しました

編集後記

冬休みに入り冬將軍が来ると、子どもたちは外で遊ぶことができず朝から『掘りごたつ』に入っ  
て、かるた取りやすごろくなどを  
して夢中に遊んだものです。  
誰もが足を伸ばし、火傷防止  
用の金網に長く触れていて「あっ  
ちっち」と悲鳴をあげるとみん  
なで大笑いしていました。  
夕食後は、父母・祖父母と一  
緒の団らんが始まります。何は  
なくても家族が一つのこたつを  
囲んで今日一日の話をする、そ  
ういう場を作っていたのが『掘  
りごたつ』でした。  
今年の正月は、昭和三十八年  
の「サンパチ豪雪」を思い起こ  
すような大雪でした。大晦日か  
ら身動きが取れず、正月三日日  
を家で過ごすことになりました  
が、雪が激しくなるとの時代の  
のなつかしい光景が思い出され  
ます。



画：野口 宜友